

【公開用】

一緒に考えよう！村民発・なかがわの学校のあり方座談会



第7回 気持ちの良い学校空間とは 編

◎令和6年10月27日(日)15時～17時 NVサウンドホールにて
参加者 大人 12名 子ども2名

◎主催「なかがわ夢みる学校プロジェクト実行委員会」

◎座談会の趣旨:「中川村新たな学校づくりプロジェクト」の現状について知る場をつくる。
第6回に引き続き、「校舎」「学校空間」について考える。テーマ「気持ちの良い学校空間とは」

ファシリテーター: 齋藤俊介さん

1、中川村新たな学校づくりプロジェクトについて

1) 夢見る学校プロジェクトとは？(自己紹介)

当団体は、新しい学校づくりに対して、いろいろな意見を言い合える場づくりを目的としている。

地域の方々と教育委員会との対話の場作りや、ファシリテーションのワークを実施している。今回で7回目。前回、学校建築というテーマで実施したところ、もっと対話をしたいという意見があり、今回は気持ちの良い学校空間とは？というテーマで実施することとなった。

2) 新しい学校づくりの現在位置

令和13年開校を目標として学校づくりが進められており、現在は教育委員会があたら数学校づくり委員会を組織して、基本計画を検討している最中。今年度検討された基本計画を元に、今年度～来年度はじめにかけて、プロポーザルの提案書が作成され、来年度にプロポー

ザルコンペを経て、設計業者が決定し来年度は基本設計が始まる。建築に関してまっさらな状態で行政に意見を言うことができるのは今年度中となる。

【質問】

Q:グローバルな学びとは何ですか。(山口さん)

A(斎藤さん):ももとは、国境を越えた地球規模の視野や見識を持ちつつ、地域での行動、活動に活かしていく考え方で、現在の国際社会で求められている人材に必要とされている考え方でもあります。探究学習でもこうした観点が重要視されている。実際に直近の探究学習では、地方、地域の子ども達に優位性を見ることができます。というのも、都会の子ども達は、都市環境が均一すぎて探求テーマが限られてしまうから。その意味でも、地方地域こそ、きちんとした探究の手順を踏むことで子ども達の探究的な学習とその成長をより促していくことができる。*近年の全国高校生マイプロジェクトのファイナリストになる高校生は、ほとんどが地方の高校生で、都会の高校生が上位に進出出来ていない傾向にある。

●公募委員紹介

※松村くん自己紹介

学校が地域とどう連携できるか。例えば、食育をどうやって地域連携して実現できるか。などを検討している。

2、みんなで考えてみよう、「きもちのよい学校空間」

齋藤さん:学校空間というと堅苦しく感じてしまうとおもいますが、「気持ちの良い空間」について考えてもらえたらと思います。

みなさん、あさイチで起きたときに「気持ちが良いなあ」とおもって起きていますか？ そうだとしたら、それはどんな空間でしたか？ あたたかいおふとんがあるとか、朝日がさしているとか、すぐそばに猫がいるとか。

そういう「わたしがきもちよかった、と感じたシチュエーション」について考えたいと思います。例えば、「白馬の唐松岳に登って、夕日がみえて、空気がきもちよかったな」「山に登っていて、朝露の中を歩くとき」とか。まず自己紹介を兼ねて、「気持ちがいいな」と感じた時や場所についてふせんに書いて貼り出ししながら、話してみてください。

>> (3グループに分かれて会話)

齋藤さん:それでは次にいま出た「空間」などについて、次の4つに分けてみてください。

「解放系」(ゆるむ)

「行動系」(集中する、自ら動く)

「体験系」(でくわす、偶発性)

「その他」

>> (グループごとに会話、グルーピング作業)

齋藤さん:それでは今した話のなかから、どんなものを学校の子もたちに手渡したいか？ 「空間」は目的ではありません。どういうものを渡し、提供したいですか？ という視点から話してみてください。

>> (グループごとに会話)

齋藤さん:それでは途中の班もあるかと思いますが、共有タイムということで、各班でどんな話が出たか教えてください

1班代表者:わたしたちの班では主に「体験」のところをみていて、浮かんだアイデアを話しました。

- 木があって、小川が流れていて、水に足をつけたり、ベンチや木陰があって、木々の香りなど感じられる場が必要。リラックスできたり自然が体感できるところがあるといいな。

- 屋上が利用できるという。風が感じられるし、高いところから景色も見られるという。
- 解放という面では、リラックスできるようなクッションのある、すわりごごちのいい場所、ベンチなどがあるとよい。
- 開放的な広いところもあるし、せまくて身を隠すこともできる場所もある
- もっと教室が広いといい。30人いたら、「30人×ひとりに必要なスペース」みたいな計算にこだわらず、テーブルの並び方をかえられたり、プラス10個くらいの机をおけるくらい広いスペースが合ったほうが、授業などのやりかたの選択肢が増えるのではないか

齋藤さん:そうですね、これからは「教室」というより「空間」というような捉え方をする方向性です。世界を見渡すと、机の形や並べ方もぜんぜん違うので。

2班代表者:行動、体験、どっちともいえるかな～？というものもたくさんありました。

- こどもたちにどんな体験を、というところで、学校の中にビオトープとかあるといいなど。興味のあることを深く調べることができるし、どろんこや虫が大好きな人はそこで遊べる、学べるみたいな体験ができる場所
- みんながこちよくすすすには？だれも悲しい気持ちですごさないですむ。どうしたらこの体験ができる？とかいっしょに話せるといいな。気持ちの良い過ごし方はそれぞれなので、それを尊重できるという
- 以前のことですが、こどもたちでルールを決めてすごしていたときは、心地よく過ごせたけど、先生が変わったらいったん全部リセットになって、「先生のルール」にかわってしまったことがあった。その結果心地よく過ごせなくなった・・・ということがあって。こどもたちが一緒に考えられるといいなと思う。
- 逃げ場や、休めるところ、いろんなタイプの子にぴったりの、いろんなスペースが有るといいな
- 図書館じゃないところにそこそこに本があったりするのもおもしろい
- トイレの中に、座って休める椅子があるのもいい
- 外国で過ごした経験のある方がいらっやって。用途によって教室を変えられたり、カフェテリアがあって子どもが過ごせる場所があるのがよかった。

3班:解放、ゆるむ、という点から主に話をしました。

- 校庭に出たら見えるのは当たり前だけど、教室とか校舎の中からも山がみえるという。
- 給食を食べながら、山がみえる(自然がみえる)
- 木々に囲まれた環境
- 屋上を活用できる校舎→星が見える、空が広くみえる
- 「ぼーっとできるスペース」というのも大切
- 焚き火のできるスペースがある。焼き芋もできる。
- 薪ストーブがあり、ごろごろできるスペースがある
- 芝生ひろばがある、みんなで輪になり、お弁当を食べられるくらいの広さがほしい
- 職員室的な執務スペースにチャオにあるような、おおきな木のテーブルがある(ミーティングとかいにつかえる)
- コーヒー、お茶コーナーがある
- 大きな窓際にお茶飲んだり、本読んだり、勉強したり、会話したり、ぼーっとしたり、なんでもできる「多目的階段」がある
- 快適な温度を空調施設だけで実現するのではなく、グリーンカーテンとか広葉樹とかで遮る。冬は太陽の光がとりいられる(パンプソーラー)、地中熱とかも利用できるように最新のエコの仕組み(エクセルギーハウス※注)があるという。そして、ただそれで快適であるというだけでなく、子どもも大人もその仕組みについて学べるように見える化されているとよい。

齋藤さん:みなさんありがとうございました。「状態目標」というものをいっばいだせたとします。この状態目標を具体的に考えることが重要です。

例えば、「野山を眺めてぼーっとする空間」や「焚き火ができる場」がある9年間か無い9年間では、こどもの体験や経験の中に差がでると思います。小中9年間、山を見て育った子どもと、壁ばかりを見て育った子どもと、どう変わる？というようなことをあんまり建築家は気にしなかつたりします。だから、こちらからそれを言うことで、設計にこうした意図や効果を反映させることができます。

今回は「ゆるむ」テーマが多く出てきました。実際、今までの学校。あるいは職場では「ゆるみ」をゆるさなかった。だから、私達は苦しかったんです。「行動」「収束」の繰り返しで、気持ちが張りっぱなし。だから疲れる一方でした。実は、その状態だと生産性が下がる一方になってしまうんですね。だから、ゆるむ環境を与えようというのが最近の会社でもトレンドになってきています。心理学の定義で「ゆるむ」ことと「集中(focus)する」ことは、実はセットなんです。二つあ

わせて本当の意味での「集中(concentration)」になります。弓の弦のように、張りっぱなしだと切れてしまいます。ゆるめて、張るから矢を飛ばせる。集中も同じように、ゆるむがないと収束もできないんです。

* 日本人は **focusing** (収束) を誤って **concentration** (集中) と呼んでしまっているのです。

そのうえで中川村の今後を考えていけば、今日出たようなアイデアを学校づくりに活かしていくことが大切です。体験格差という言葉が最近の教育界でもホットですが、光や木陰の揺らぎを感じながら過ごせる9年間で大事にしたい、ということと設計業者と対話し、こういったテーマを軸に話をすることが大事です。ここまで出てきたゆるむ環境も同様ですね。適切にゆるめて、質の高い収束が出来ると本当の意味で集中できる環境をいかに与えるかで子ども達の人生は大きく変わります。

また逆にこうした「目的」があるからこそ、建築家の人から示されたものに対して、自分たちで「目的」「基準」に照らし合わせて、明確な理由と共に「ノー」と言うこともできるようになります。

世界中で机や椅子の並べかたは違うように、こうした意思や願いを含めた空間提起というもの。中川村らしい空間ができるといいと思います。どういうところが気持ちの良い空間なのか、どんなことが子どもたちにとってベストなのかを、これからの時代に即して考え、言語化する。そして、またしっかり対話していくとよいと思います。

※注 エクセルギーハウス

「エクセルギー」とは、使用可能なエネルギー”資源性”という意味で、「エクセルギーハウス」とは、太陽・風・雨の力などをなるべくそのまま利用して、できるだけエネルギーを使わずに快適に暮らせる家のこと。